社会福祉法人ことぶき令和６年度事業報告書

１．理事会・評議員会の開催状況

⑴ 理事会の開催状況

区分	開催日	出席	監事	議　　案
第１回	６月５日	７名	２名	① 令和５年度下半期理事長及び業務執行理事の職務執行状況報告 ② 令和５年度事業報告及び計算書類等の承認 ③ 就業規則一部変更の承認 ④ 理事選任候補者の推薦の承認 ⑤ 定時評議員会の開催内容 ⑥ 評議員選任・解任委員会委員の選任の承認
第２回	１１月６日	７名	２名	① 令和６年度上半期理事長及び業務執行理事の職務執行状況報告 ② 令和６年度上半期事業活動収支状況報告 ③ 経理規程の一部変更の承認
第３回	３月２６日	７名	２名	① 令和６年度補正予算の承認 ② 令和７年度事業計画及び収支予算の承認 ③ 給与規程一部変更の承認 ④ 就業規則(育児･介護休業等に関する規則)一部変更の承認

⑴ 評議員会の開催状況

区分	開催日	出席	監事	議　　案
定　時	６月２０日	７名 欠１名	２名	① 令和５年度事業報告 ② 令和５年度計算書類等の承認 ③ 理事の選任の承認

２．職員状況

⑴ 退職者１１名（うち休職者３名）

- 介護老人福祉施設：介護士・看護師　計１０名
- 通所介護事業：介護士　１名

⑵ 採用者１２名（うち新卒２名）

- 介護老人福祉施設：介護士・看護師　計１０名
- ケアハウス：生活相談員　１名
- 通所介護事業：介護士　１名

3.防災対策・設備管理等

⑴ 消防訓練の実施　４月２４日 昼間想定　　１０月１６日 夜間想定

⑵ 設備点検の実施　非常用ガス自家発電、電気、ＥＶ、給湯、浄化槽、消防設備等

4. 寄付受入れ状況

月	寄付内容	氏名又は団体名
―	―	―

5. 健康管理

⑴ 入所者（入居者）

- ５月２７日　結核健康診断（胸部レントゲン）　６月～７月　入所者施設健診

⑵ 職員

- ６月１４日　全職員対象定期健康診断及びストレスチェック
  （介護職員は腰痛健診）／伊勢崎佐波医師会病院検診センター）
- １月中　介護老人福祉施設常勤介護士健康診断／山田内科クリニック

6．主な設備、備品等購入　　【総額】６９６，３００円

内　　容	事業種別	金　　額
医務 高圧蒸気滅菌器　１台	介護老人福祉施設	４０２，６００円
調理室 業務用ﾃｰﾌﾞﾙ型冷蔵庫１台	介護老人福祉施設	２９３，７００円

7．事故発生状況　４８件（前年比+２）

事　業　所	転倒転落	介護ミス	その他	計
介護老人福祉施設	２６	7	1	３４(+１)
ケ ア ハ ウ ス	1	0	0	１（±０）
通　所　介　護	3	0	0	３（+１）
訪　問　介　護	0	0	0	０（±０）
短期入所生活介護	8	0	2	１０（±０）

《骨折等重大事故の概要》３件（前年比－３）

事業所	年齢 原因等	骨折部位・状況等
介護老人福祉施設	８５歳 女性 要介護３ 自ら転落	〈左大腿骨骨折〉深夜ナースコールボタンがベッド柵の外側に落ちており、うまく手が届かなかったため、自ら車椅子に乗り移ろうとして転落しているのを夜勤者が発見。左大腿部の痛みを訴えたため、即日整形外科に受診し左大腿骨骨折と診断。ご家族とご相談の上ギプス固定の保存療法となる。着床時や巡視時に、ナースコールのボタンの位置を要確認することを周知した。
介護老人福祉施設	７８歳 男性 要介護４ 介護ミス	〈異食〉別の入所者が化粧用クリームを食堂に持参されテーブル上に置き忘れてしまい、介護士もそれに直ぐ気づかずにいた。すると重度認知症の当該入所者が誤って化粧用クリームを食されてしまった。クリームは自然成分であるため、体調不良は無かったが、各テーブル上にある物は随時確認することを職員間で周知し、ご家族へも対策等をご説明させていただいた。

ケアハウス	８８歳 女性 要支援１ 自室で転落	〈左鎖骨骨折〉起床時に自室でベッドから離床しようとした際に滑り落ちる。左肩に腫れはあったが痛みをあまり感じなかったため職員に告げていなかった。しかし３日後に強い痛みを感じたため職員に告げ左脇に内出血が出ているのを職員が確認し、至急整形外科への受診の結果、左鎖骨骨折の診断となり全治１か月にて鎖骨バンドの患部固定となる。 自室でいつも腰かけているベッドマットレス脇が凹んでおり傾斜になってしまっていたため、滑り落ちやすい状態であったことが判明。マットレスを反転させて傾斜のない部分になるよう調整し、手すりも新たに増設し対策を図った。

8．苦情対応状況　　２件（前年比+２）

苦情者	苦情・対応内容
一般市民 男性	職員が公用車で外部研修へ行く際に、工事箇所があるバイパス２車線道路にて当職員が走行車線に強引に割り込んできたため腹を立て「ことぶきの郷」の名前入りに公用車と気づき、当法人に苦情の電話を頂いた。 当職員にも慎重に事情を確認し、ことぶきの郷の看板を背負って公用車を運転していることを忘れてはならないと反省させた。 改めて苦情者の方に施設長及び当職員から丁重にお詫びのお電話をさせていただき、ご理解を得ることができた。
入所者家族 男性	入所者の家族が面会で来所し部屋のタンスの中を見たが、中身の衣類等が整理されていないことを所属長に申し出た。さらに、新しく洋服を持参させているのにそのままタンスに入れてある。着ている服がいつも同じ。部屋のカレンダーを替えていない。等のご意見を頂いた。 所属長が上記の内容についてその場でお詫び申し上げた。コロナ禍以降、ご家族の出入りが少なくなり職員が居室内や衣類に気を遣っていなかった現状を反省するとともに、入所者の居室の整理整頓を徹底することを職員に周知した。

9．利用者状況

事　業　所	延利用人数	一日平均	稼働率	平均介護度
介護老人福祉施設	17,187 人 （-297）	47.1 人 （-0.8）	94.2% （-0.8）	4. 3 （±0.0）
ケ ア ハ ウ ス	4,949 人 (-63)	13.5 人 (-0.2)	90.4% (-1.1)	1.0 (±0.0)
通　所　介　護	5,236 人 （-570）	18.6 人 (-0.2)	74.4% (-1.6)	1.9 (+0.1)
訪　問　介　護	2,813 件 (-484)	9.1 件 (-1.5)	―	1.2 （-0.1）
短期入所生活介護	2,961 人 (+395)	8.1 人 （+1.1）	81.0% (+11.0)	4.3 (+1.1)
居 宅 介 護 支 援	1,294 件 （+44）	月 107.8 件 （+3.7）	―	1.6 (-0.1)

10．ボランティア及び実習生受入状況

⑴ ボランティア

- 伊勢崎興陽高校　花と緑で環境を創る系列２年生　花壇の植栽　５月、11 月
- 市立第三中学校　チャレンジウィーク職場体験　特養２名　通所２名
- ケアハウス　　折り紙教室（地域の先生）
- インターンシップ就業体験　新田暁高校(通所２名)　伊勢崎商業高校(通所２名)

⑵ 実習生　２０名

- 介護福祉士介護実習‥‥東京福祉大学（特養２名）伊勢崎興陽高校（特養１名）
- 初任者研修‥‥新田暁高校(特養･通所 計８名)　IBC ｱｶﾃﾞﾐｰ(特養･通所 計２名)
- 教員免許取得介護実習‥‥共愛学園大学（通所１名）　群馬大学（通所２名）

11．職員研修実施状況

⑴ 施設外研修

月	事業所	研修内容	主催	開催方法
5月	居宅支援	介護支援専門員研修(計５回)	包括伊勢崎	集合
6月	老人介護	喀痰吸引等指導者講習	県社福事業団	集合
	居宅支援	介護保険制度事業者説明会	伊勢崎市	動画配信
7月	ｹｱﾊｳｽ	軽費ケアハウス情報交換会	県老施協	集合
	居宅支援	退院調整ﾙｰﾙﾒﾝﾃﾅﾝｽ会議	在医介ｾﾝﾀｰ	集合
	居宅支援	主任介護支援専門員研修	県社協	ｵﾝﾗｲﾝ
	居宅支援	身体拘束及び虐待事例検討会	包括北三郷	集合
9月	老人介護	生活相談員全体研修	県老施協	集合
	ｹｱﾊｳｽ	第１回軽費ケアハウス県内施設視察	県老施協	集合
	通所介護	自動車安全運転講習（実技）	県老施協	集合
	居宅支援	防災訓練と BCP 運用協議会	包括北三郷	集合
10月	老人介護	喀痰吸引基本研修	㈱IBC	集合
	老人介護	作業療法士会認知症ケア研修	県 PT 会	集合
	老人介護	看護研究部会研修	県老施協	集合
	ｹｱﾊｳｽ	軽費ケアハウス合同情報交換会	県老施協	集合
11月	老人介護	県老施協介護チャレンジ２０２４	県老施協	集合
	通所介護	自動車安全運転講習会（講義）	県老施協	集合
	居宅支援	主任介護支援専門員実習指導研修	県社協	ｵﾝﾗｲﾝ
	居宅支援	障害者支援研修	包括北三郷	集合
	居宅支援	自立支援型地域ケア個別会議	包括伊勢崎	集合

１月	ｹｱﾊｳｽ	第２回軽費ケアハウス県内施設視察	県老施協	集合
	居宅支援	障害者多重課題事例検討会	包括北三郷	集合
	居宅支援	DWAT フォローアップ研修	群馬県	集合
	居宅支援	多職種ネットワーク研修	在医介ｾﾝﾀｰ	ｵﾝﾗｲﾝ
２月	老人介護	喀痰吸引基本研修	㈱IBC	集合
	居宅支援	伊勢崎地域緩和ネットワーク研修	市民病院	ｵﾝﾗｲﾝ
	居宅支援	認定調査員現認研修	県社協	ｵﾝﾗｲﾝ
３月	居宅支援	在宅医療連携研修	群馬県	ｵﾝﾗｲﾝ
	居宅支援	介護支援専門員シャドーワーク研修	包括北三郷	集合
	居宅支援	認知症独居高齢者事例検討	包括赤堀	集合

(2)　施設内研修

	介護老人福祉 短期入所生活	ケアハウス	通所介護	訪問介護	居宅介護支援
4 月	喀痰吸引 緊急時対応	感染症予防 蔓延防止①	緊 急 時 対 応 AED取り扱い	倫理・法令遵守	
5 月	BCP（災害） ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ	リスクマネジメント基礎編	倫理と法定遵守	ハラスメント対策	倫理・法令遵守
6 月	倫理法令遵守 個人情報保護	身体拘束・ 虐待防止①	食中毒対策	接遇	
7 月	食中毒対策① BCP（感染症）	倫理・法令遵守	介護技術向上 （入浴介助）	感染症・食中毒対策	プライバシー保護
8 月	身体拘束･虐待防止･人権擁護①	BCP（災害）①	リスクマネジメント	認知症ケア	
9 月	感染症・口腔衛生	個人情報･ﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰ保護	マナー・接遇	BCP（災害） 机上訓練	高齢者虐待防止
10 月	苦情処理 ハラスメント	感染症予防 蔓延防止②	個人情報･ﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰ保護	ﾀｰﾐﾅﾙｹｱに関する研修	
11 月	BCP(感染症) ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ	認知症ケア	BCP（感染症）	個人情報の保護	感染症対策・ BCP 机上訓練
12 月	看取り・褥瘡予防	リスクマネジメント応用編	身体拘束・ 虐待防止	高齢者虐待防止	
1 月	食中毒対策② BCP（災害）	身体拘束・ 虐待防止②	ハラスメント	リスクマネジメント	認知症ケア
2 月	身体拘束･虐待防止･人権擁護②	緊急時対応	認知症ケア	緊急時対応	
3 月	委員会等活動見直し	BCP（災害）②	BCP（机上訓練）	事業所評価 自己評価	居宅介護支援

12．年度総括

⑴ 法人全体

① 安定した収益の確保

令和６年度は、年度当初通所介護事業でコロナウィルスクラスターが発生したことによる３日間の営業停止等もあり、通所介護の実績の回復に大きな影響を与えることとなってしまった。しかし、介護老人福祉施設や短期入所生活介護事業では、感染症による入院等もなく安定した収益の確保ができた。さらに居宅介護支援事業所では、継続的な営業活動をすることにより大きく実績を落とした前年度から比較し大幅な実績増に繋げることができた。入所系サービスの安定した実績が大きく影響したことにより、法人全体で前年度比５，８００千円の増額となった。

② 職員定着とスキルアップ

上半期は職員の相次ぐ退職が課題となってしまったが、人材紹介や派遣職員の活用を導入することにより下半期あたりから安定した職員確保が可能となった。新入職員も多かった年度ではあるが、人材紹介等を導入することで人材選別を吟味することができた結果、法人風土に適した人材の確保ができた。このことで多くの新入職員の「新しい風」に刺激を受けることができ、在職中の職員も職務に対する考え方の振り返りに繋がっている。新旧融合でうまくスキルアップを図ることを今後も期待していきたい。

③ 感染症対策の徹底

新型コロナウィルス感染症は、５類感染症に移行してからも面会や外部来訪者の制限を徹底した。職員においても感染のリスクの意識を高め、濃厚接触や陽性反応に対する上長への報告を厳格し、さらには抗原検査を徹底した。その結果、介護老人福祉施設と短期入所生活介護事業の感染症は防止できた。しかし通所介護事業において利用者からの感染が職員にまで広がったことにより、３日間の営業停止を余儀なくされた。また当通所介護を利用していたケアハウス入居者にも感染が確認されたため、他のケアハウス入居者への拡大予防もする結果となった。通所介護事業のような在宅サービス利用者の場合において家族との連携協力依頼も徹底することで今後の感染症拡大を防いでいきたい。

⑵ 介護老人福祉施設　（定員 50 人）

【１日平均】47.１人（－0.8）　【入所】12 人（－7）【退所】10 人（－10）

令和 4 年度の年末年始における新型コロナウィルスクラスターでの教訓により、コロナウィルスを侵入させないことを合言葉に予防対策を徹底することができた。また、口腔衛生の義務化による歯科医との連携により、口腔ケアの見直しを図ることで誤嚥性肺炎の入院件数も減った。さらに iPad を活用してリアルタイムで入所者の健康管理を把握できるようになったことは大きな業務改善になった。今後も入所者の健康と安全管理を継続していきたい。

⑶ ケアハウス　（定員 15 人）

【１日平均】13.5 人（-0.2）　【入居】３人（+2）　【退居】２人（－1）

新たな取り組みとして個別リクエスト外出企画を実施し、個々の希望に沿った楽しみを提供することができた。また文化祭の作品展示を通して創作意欲の向上、やりがいの発見、入居者間のコミュニケーションの促進につなげることができた。例年同様、感染症予防対策をしていたものの、入居者の新型コロナウィルス感染者が４名同時期に発生したことにより、他の入居者にも居室待機のご協力を仰ぐこととなってしまった。今後も心身の健康保持と快適な生活が送れる場の提供に努めていきたい。

⑷ 通所介護　（定員上限 25 人/日）

【１日平均】18.6 人（-0.2）

１日平均２０人の利用実績を目標としてきたが、結果は１８.６人と目標実績を達することが叶わなかった。５月下旬には新型コロナウィルスクラスター発生による３日間の営業停止と前後数日の営業自粛も実績低下となった原因の一つとして挙げられる。しかし、利用者の多様化に応じられるよう重度認知症や癌末期の利用者の積極的な受け入れ、さらに下半期以降には要支援者の利用実績が増加していることにより、これからの中長期的な利用実績の安定が見込めることを期待している。

⑸ 訪問介護　　【１日平均】9.1 件（－1.5）

１日平均１０件以上の利用実績の目標としてきたが、入院者や施設入所等の利用者が増加したことにより、結果は９.１件と目標実績を達することが叶わなかった。しかし前年度同様、複数の利用者及び家族から「ありがとうまたお願いします」「待っていたわよ」等有難いお言葉をいただくことで、安心して多くの利用者ニーズに応えられることができている。さらに利用者に安心してご利用いただけるよう今後も努めていきたい。

⑹ 短期入所生活介護（定員 10 人）

【１日平均】8.1 人（+1.1）

新型コロナウィルスや他の感染症対策として、入所時の抗原検査の実施は継続して行っており、現在まで利用者からの感染は見られていない。介護老人福祉施設の入院者空床有効活用もスムーズに実施できた結果、前年度実績を大きく上回る稼働率となった。今後も入所待機在宅利用者の長期的な利用確保に努め安定した利用実績を達成できるようにしていきたい。

⑺ 居宅介護支援事業

【１月平均】107.8 件（＋3.7）

実績回復を大きな目標とし、地域包括支援センターや民生委員への積極的な営業活動と連携により、実績の回復に繋げることができた。介護予防教室「おたっしゃクラブ」を毎月開催し、地域の高齢者の身体機能の維持や楽しみづくりに貢献することができた。今後も地域や他事業所への広報活動をより強化することで安定した実績と、ケアマネジャーの知識と質を高め、「選ばれる居宅介護支援事業所」を目指していきたい。

13．令和６年度事業報告附属明細書について

令和６年度事業報告で、社会福祉法第４５条の２７第２項の規定により作成する事業報告の付属明細書は、社会福祉法施行規則第２条の２５第３項で規定する事業報告の内容を補足する重要な事項がないため作成していない。